

エビデンスに基づく褥瘡アセスメント・ ケアガイドの紹介と臨床評価研究の方法

須 釜 淳 子、紺 家 千津子、大 桑 麻由美
(金沢大学大学院医学系研究科保健学専攻)

【目的】私達は、過去に褥瘡発生予測と予防看護技術について研究を行ってきた。その結果褥瘡は適切な看護ケアを施せば確かに予防可能であることを褥瘡発生率の減少を通して明らかにしてきた。しかし、高齢化、基礎疾患の複雑さが加味して、全身状態の悪化した患者では、褥瘡の予防は難しく発生は未だ後を絶たない現状がある。

看護セミナーでは、高齢者における褥瘡の早期治癒を目指し、看護師の意思決定を的確に行う褥瘡ケアの看護技術システム確立のために開発された褥瘡アセスメント・ケアガイド¹⁾の開発過程とその経済的評価についての説明、ならびに各参加者が実際にケアガイド (CD-ROM) の使用を体験した。

【研究組織】本研究は、厚生科学研究費補助金長寿科学総合研究事業 (H13-長寿-020) 「褥瘡ケアにおける看護技術の標準化とその経済評価」によるものであり、以下の研究組織で構成された。主任研究者：真田弘美 (東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻)、分担研究者：阿曾洋子 (大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻)、足立香代子 (せんぼ東京高輪病院栄養管理室)、大浦武彦 (恵翔会グループ 褥瘡・創傷治癒研究所)、須釜淳子、徳永恵子 (宮城大学看護学部)、田中マキ子 (山口県立大

学看護学部)、廣瀬秀行 (国立身体障害者リハビリセンター研究所) 宮地良樹 (京都大学大学院医学研究科)、森口隆彦 (川崎医科大学)

【看護セミナー報告】開催日時：平成17年7月17日(日)14時～17時。参加人数：17名。

セミナー内容

1. 開発背景

日本の褥瘡に関する医療について
治癒停滞褥瘡とその要因
ツールがもたらす意義

2. 研究プロジェクトの紹介

研究組織
研究過程
褥瘡部ケア用創部アセスメントツールとケア
アルゴリズムの概念

3. ツールの紹介 (書籍, CD-ROM)

臨床の意思決定支援ツール、看護師の褥瘡ケア教育ツールとしての使用
特にCD-ROM版についてはツールの利便性、
将来性 (電子カルテとの連動) も含む

4. 臨床評価研究 (費用対効果) の紹介

5. 質疑応答

文 献

- 1) 真田弘美編集：褥瘡アセスメント・ケアガイド, 中山書店, 東京, 2004

対人関係について—親子関係を中心に—

木 村 留美子

(金沢大学大学院医学系研究科保健学専攻)

平成17年7月31日、午前9時30分から12時30分の3時間、「対人関係について—親子関係を中心に—」のテーマで話をさせて頂きました。参加者は20数名、管理職の方々が多かったように記憶しております。大変暑い中を大学まで来て頂き、熱い討論をして頂き有難うございました。

前半は、乳幼児期の発達課題を達成する上で最も重要な親子関係の形成について、パワーポイントを用い、これまでの研究の成果から話をさせて頂きました。ここで、少し親子関係についての概要を話しておく必要があるかと思いますが、「親子関係」というのは、1950年代にボウルヴィが愛